

資料(Data)

## 教育学部就職支援活動に関する満足度調査

——第1期生を対象に——

Degree of satisfaction investigation about school of  
education employment support service for the first  
graduate

石橋 尚子  
Ishibashi Naoko\*

### 1. 問題の所在と目的

平成23年3月15日、椋山女学園大学教育学部は初めての卒業生を世に送り出した。その設立準備から関わった者の一人として、感慨深い巣立ちの日であった。

本学部が数年の準備期間を経て設立されたのは、平成19年4月。すでに県内には愛知教育大学を中核とする強固な教員養成体制が出来上がっていて、新規参入の困難性は容易に推測された。また、保育士養成校もすでに30を超えていて、新たな保育士需要を引き出すこと、とりわけ公務員保育職（公立保育園・公立幼稚園・公立子ども園）への就職は極めて難しい状況にあると思われた。初めての入学生の出身高等学校はもちろん、県内外の高等学校からは、4年後の教員採用試験合格者数と公務員保育職合格者数について、期待と不安が内混ざった強い関心が寄せられ続けた。

このような状況下で産声をあげた私立の教育学部にとって、質の高い優秀な教員・保育士養成を目指すことはもちろんのこと、高い就職率（採用試験合格率）を目指すこともまた学部の存亡をかけた最優先課題であった。そこで本学部では、学部内にキャリア教育委員会を設置し、学生委員会（就職委員会を内包）と協働・協調しながら、教職・保育職への就職支援体制を構築していった。それとともに、一般企業への就職希望者の支援については、学内のキャリアサポート課に全面的に協力を頼むこととした。経験や前例がほとんど無いに等しい中での、まさに手探りの就職支援活動がこうして始まった。そして迎えた初めての就職年。学生の努力と就職支援が見事に結実し、保育職（保育士・幼稚園教諭）希望者就職率100%（内：公務員保育職73.3%）、教員（小学校・中学校・高等学校）希望者就職率81.3%（内：教員採用試験合格率63.8%）の好実績（詳細はTable 1・Fig.1 参照）をあげることができた。また、企業等への就職も、概ね学生の希望を叶えることができた。今後はこの就職実績が目標となり、さらなる就職支援体制の強化が求められることとなる。

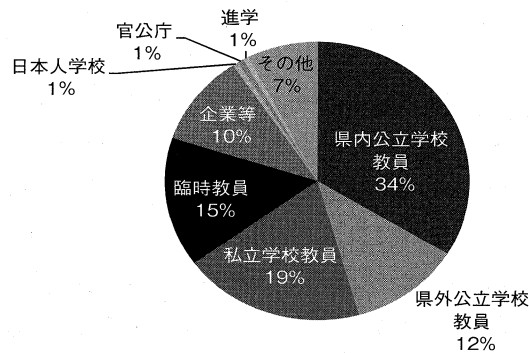
そこで、本報告では、次年度以降さらに学生一人ひとりに寄り添った就職支援活動を展開していくために、平成22年度教育学部4年生（第1期生）を対象に4年間の就職支援についての満足度を調査し、報告するものである。彼女たちの貴重な意見を、

今後の就職指導・支援活動に活用していきたい。

Table 1 平成 22 年度嵯山女学園教育学部卒業生就職等進路状況

註：○数は非常勤講師数で、外数。

専 性 卒 修 別 生		就 職																進学								
		教 員																専 攻 科	そ の 他							
		県内				県外				私立				日本小 人学校 計	官 公 庁	民間 企業 計										
		小学校	中学校	幼稚園	保育園	小学校	中学校	幼稚園	保育園	小学校	中学校	高等学校	幼稚園				保育園									
保育・ 初等	女	85	①	6	0	①	3	18	1	0	2	8	0	0	0	15	10	1	⑤	64	1	9	⑤	74	0	6
初等			⑦	⑤				⑥	①										①⑨			①⑨				
中等	女	75	24	3	0	0		7	1	0	0		5	0	1	0	0	0	41	0	8		49	1	6	
			⑧	⑤	①	③		⑥	①																	
			30	3	3	18		8	1	2	8		5	0	1	15	10									
							①⑦			⑦									②④			②④				
160							54			19							31	1	105	1	17	123	1	12		



註：保育職は教員に含む。

Fig. 1 平成 22 年度教育学部卒業生の就職等進路状況

## 2. 調査方法

- (1) 調査対象者：平成 22 年度教育学部 4 年生 140 名
- (2) 調査日：2010（平成 22）年 11 月 25 日
- (3) 調査手続き：教員免許状取得見込み者のための「学内申請手続ガイダンス」の時間に、教育学部 4 年生のみを対象として、集団でアンケート調査用紙への回答を求めた。調査項目は以下の 5 項目である。①学部キャリア教育委員会を中心とした教育学部の就職支援全般について、その満足度を問うもの。②キャリアサポート課の就学支援について、ガイダンスを中心にその満足度を問うもの。③公務員試験対策講座（オープンカレッジ）等の外部委託就職支援について、参加状況と感想を求めるもの。④これまでの就職活動を振り返っての感想や今後の就職支援についての要望などを、自由記述で求めるもの。⑤「仕事」「働くこと」に対するイメージについて、入学時点と現時点での変化を問うもの。調査時間は、約 15 分であった。

### 3. 結果と考察

#### (1) 学部キャリア教育委員会を中心とした教育学部独自の就職支援について

この4年間、教育学部では主に以下の7つの活動を中心に就職支援を行ってきた。それらは、学生にとって満足できる（役に立つ）ものであっただろうか。7つの就職支援それぞれについての満足度をたずねるとともに、全体としての総合評価を求めた。その結果、全体としては「満足：14.2%」「やや満足：62.7%」「やや不満足：22.4%」「不満足：0.7%」という評価であり、「満足+やや満足」は76.9%となり、満足度は比較的高いといえよう。また、各就職支援に対する評価はTable 2に示す通りである。「満足+やや満足」の値を高い順に並びかえたFig2と合わせてみると、「現場管理職経験者による面接指導と助言（83.6%）」「5回の学力適性調査（83.3%）」「卒論指導教員による指導と助言（76.4%）」の満足度が高い。他方、評価が低かったのは、1年生から3年生前期までの相談相手として位置付けられてきた「生活指導教員（平成23年度より学修・生活指導教員と改称）による指導と助言」である。現行制度では、生活指導教員が担当学生とかかわりを持つのは、何か問題が起きた場合（例えば、不修学や休・退学への手続き等）への対処的指導が主であり、両者の関係性は日常的には極めて薄い。両者のかかわりを保障し、気軽に相談できる関係性が育まれるような

Table 2 教育学部独自の就職支援に対する満足度（数字は%）

支援内容	満足	やや満足	やや不満足	不満足
各種採用試験に関する説明や情報提供	20.3	52.2	24.6	2.9
5回の学力適性調査	24.2	59.1	15.9	7.6
3年前期までの生活指導教員による指導と助言	15.8	40.3	33.8	10.1
3年後期からの卒論指導教員による指導と助言	35.7	40.7	20.0	3.6
生活指導・卒論指導教員以外の教員からの指導と助言	24.1	49.6	21.1	5.3
現場管理職経験者による面接指導と助言	40.6	43.0	15.6	0.8
二次三次試験対策	26.3	38.6	25.4	9.6

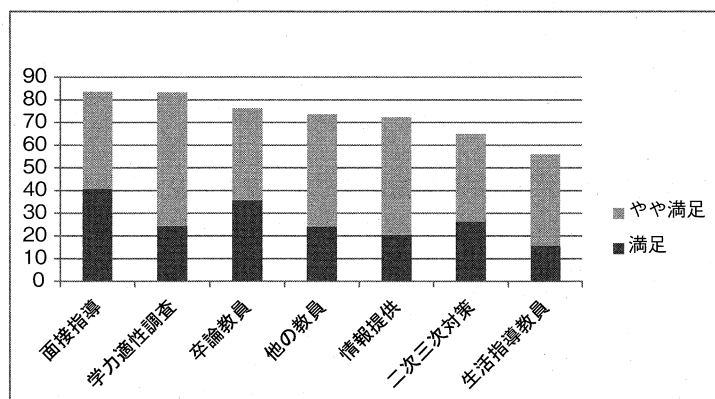


Fig.2 教育学部の就職支援に「満足」「やや満足」だった者の率

制度・運用上の工夫が必要である。

## (2) キャリアサポート課の就職支援について

長年にわたり全国トップクラスの就職率を支えてきたのが、本学キャリアサポート課である。企業就職支援のための情報提供と指導法には定評があり、各学部の教職課程取得者のための教員採用試験対策にも尽力してきている。しかしながら、今回初めて、保育・教育界への就職をコアとした教育学部1期生の支援を行うにあたり、キャリアサポート課と学生の双方にかなりの戸惑いがあったことは否めない事実であった。

その一つを、キャリアサポート課が全学的に開催する「就職ガイダンス」等への参加率の低さが物語っている (Table 3)。保育職・教職を目指す多くの学生から、「採用試験に役立つ内容なのだろうか?」と参加を躊躇する声や、「企業就職中心の説明で、教員採用試験には直接関係ない内容だった」といった後日談が聞かれ、参加率や満足度の低下を招いているようであった。しかしながら、参加した場合の満足度は決して低くはない。全体として、「満足: 11.4%」「やや満足: 58.1%」「やや不満足: 26.7%」「不満足: 3.8%」という結果であった。企業就職を視野に入れていた学生にとっては一番の拠り所であり、マナー講座などの汎用性は評価されている。教育学部生のための就職支援について、キャリアサポート課と教育学部がさらなる連携とバランスを保ちながら、協議・検討を行っていくことが重要である。

Table 3 キャリアサポート課の就職ガイダンスを中心とした就職支援に対する満足度 (数字は%)

ガイダンス等支援内容	参加率	満足	やや満足	やや不満足	不満足
1 回 (就職活動の流れ・自己分析の方法等)	54.8	17.6	58.1	10.8	13.5
2 回 (試験の種類と対策・SPI 等)	46.7	23.8	57.1	9.5	9.5
3 回 (キャリアサポート活用術・業界研究・夏休みの課題等)	31.9	14.0	62.8	9.3	14.0
4 回 (マナー講座)	34.1	47.8	34.8	8.7	8.7
5 回 (内定者報告会)	19.3	30.8	42.3	19.2	7.7
6 回 (履歴書の書き方等)	26.7	36.1	47.2	8.3	8.3
7 回 (求人票の見方・学校推薦等)	24.4	24.2	51.5	9.1	15.2
名古屋市教育委員会の採用試験説明会	32.6	27.3	47.7	18.2	6.8
OGとの交流会	9.6	15.4	23.1	46.2	15.4
日常的な相談や就職情報の提供		14.4	45.2	37.5	2.9

## (3) 外部委託就職支援：公務員試験対策講座（オープンカレッジ）について

本学エクステンションセンターは、教育学部1期生の就職に合わせて、保育士・教員採用試験対策講座（オープンカレッジ：有料）を開設してくれた。それぞれの対策講座の受講状況と、寄せられた感想は以下の通りである。

### ① 教員採用試験（教職教養）対策講座について

受講者は83人(59.3%)。寄せられた感想は以下に示す20件。「講座の内容」と「担当講師」の満足度については、その評価が分かれている。「受講時期と時間」については、

今後の見直しが必要であろう。

【講座の内容について】わかりやすかった(3人)、役に立った、面白かった、勉強の仕方がわかった、基礎学力の復習が出来た、教材が良かった。⇔役に立たなかった(2人)、あの程度なら自分でできる、レベルが低く期待外れの内容だった。

【担当講師について】先生が面白くてわかりやすかった、先生の当たり外れが大きすぎた、先生が雑談ばかりで嫌だった。

【受講時期と時間について】受講時期が早すぎる(3人)、4年生になってから受講すればよかった、講座の時間が短くて詳しく学べなかった。

## ② 教員採用試験(小学校教諭志望者:小学校全科)講座について

受講者は18人(12.9%)。「試験に役立った」「わかりやすかった」「質問ができてよかった」の3件の感想が寄せられ、満足度は高いようである。

## ③ 保育士・幼稚園教諭(教養試験)対策講座について

受講者は30人(21.4%)。寄せられた感想は11件。「全体的に教養として学べた」「勉強になった(3人)」「勉強する気になった」「先生方の熱意と教え方が良かった」と評価は概ね良好だが、「全範囲をカバーできていなかった(2人)」「もう少しゆっくり進んでほしかった」との指摘もあった。また、「講座の時間が短く詳しく学べなかった」「学生の時間を考えてもらいたかった」と、講座1回分の時間と開催時間帯への検討を要望する声も寄せられている。

## (4) 就職活動の振り返りと今後の就職支援に関する要望

これまでの就職活動を振り返っての感想や今後の就職支援についての要望などを、自由記述で求めたところ、71人から回答があった。主要な文章を一人一文抜き出し分類したところ、「教育学部の就職支援体制について(28人)」「学部教員の就職支援について(22人)」「キャリアサポート課の就職支援について(19人)」「その他(2人)」の4つに大別された。その詳細は以下に示す通りである(文末の( )数は人数)。個々の意見を真摯に受け止め、不満の改善と要望の実現を目指して行きたい。

### 【教育学部の就職支援体制について】

#### ○早期からの他県出身者を含めた支援を

- ・1～2年生の頃からもっと就職を視野に入れて指導してほしかった(3)。
- ・先輩がいないので、モデルがなくて困ることが多かった(3)。
- ・第1期生ということで情報量がとても少なく、途方に暮れることが多かった。
- ・先輩に私たちの経験を知らせたい。
- ・愛知の情報だけでなく他県(岐阜・三重・静岡など)の情報もほしかった(4)。
- ・県外者への対応が不十分。

#### ○指導の偏りの是正を

- ・教員志望支援に偏りすぎ。一般企業志望者も大事にしてほしい。
- ・公務員にならないといけないという空気が感じられました。

○二次・三次対策や面接指導などのさらなる充実を

- ・試験を受ける上での注意事項や、結果が出てからの対応が不十分だったと思う。
- ・二次や三次対策をもっと増やしてほしい。・二次対策を充実させてほしい(2)。
- ・面接指導をもっと増やしてほしい(2)。
- ・保育職の面接指導はとても丁寧でありがたかった。
- ・名古屋市をメインにしすぎだと思う(面接枠)。

○親身な対応や支援を卒業後も

- ・私立幼稚園への就職の仕方やかわり方など、わからないことが多々あった。
- ・大切なときに学校が開いていない。改善してほしい。
- ・支援を卒業後も継続してほしい(3)。

【学部教員の就職支援について】

○満足だった

- ・学部の先生方がとても熱心に指導してくださり、とてもうれしく思っています(3)。
- ・学部の先生が色々やってくれた。ありがとうございました。
- ・相談できる先生が何人かいたので、助かった。
- ・ゼミで勉強や面接練習を何度も行ってくれたので、とても助かりました(2)。
- ・ゼミの先生が自分のことのように合格を喜んでくれて嬉しかった。
- ・ゼミの先生と何度もメールをやり取りして、励まされた。

○不満足だった

- ・就職のことについて、先生たちがもっとちゃんと理解していてほしかった。
- ・先生たちの協力が0ゼロで、とても不満でした。
- ・先生同士の連絡が取られていなかった。
- ・先生によって答えがバラバラで、困った。
- ・ゼミの先生によって、バックアップしてくれる差がありすぎと思いました(4)。
- ・あまり頼れる先生がいなかった。
- ・もう少し相談にのってほしかったです。
- ・採用試験が夏休み中で、先生との連絡が中々取れなかった。
- ・もっと先生と密に連絡を取り合えるとよかった(2)。

【キャリアサポート課の就職支援について】

○満足だった

- ・キャリアサポの人は親身になってくれて、ほぼ毎日通っていた。
- ・キャリアサポのおかげで、早く内定をいただけた。
- ・キャリアサポのマナー講座は緊張したけど、役に立つものだった。

○不満足だった

- ・キャリアサポは企業用だけでなく、教育学部用のサポートもしてほしい(4)。
- ・キャリアサポの就職支援は少なかったと思う。
- ・何もサポートしてくれないのに、結果報告だけほしがるのは不快。

- ・「企業に行きたいのなら、なぜ教育学部に行ったの」と言われて、辛かった(2)。
- ・助言をいただいたが、企業と私立園は違う。そのあたりを理解してほしかった。
- ・キャリアサポに行きにくい感じがあった(6)。
- ・キャリアサポにはよく行ったが、あまりよい話をきけず、相談する気になれませんでした。学生が望んでいるのは、アドバイスではなくて、自分の気持ちを落ち着いて聞いていただける人と場所だと思います。

【その他】

- ・教員採用試験に落ちた後の就活はとても厳しい。
- ・自分で調べて、自分で動くしかないと学んだ。

(5) 「仕事」「働くこと」に対するイメージについて

この4年間の教育学部での学びや就職活動を通して、学生の仕事観や働くことへのイメージは変化したのだろうか。入学時点で持っていた「仕事」「働くこと」に対する考え方と現時点での考え方、その両者を比較検討した。回答者は68人。

自覚された変化で最も多かったのは、「漠然としたイメージ⇒明確な意識化(18人)」へ進歩したとするものであり、期待や不安を抱きながら「働きたい」と意欲を示す記述が多かった。「夢・あこがれ・希望」を持って入学した学生が、「大変さ・責任の重大さを実感」し、ポジティブ(10人)にもネガティブ(9人)にも変化していることも興味深い。単純に「楽しそう」と思っていた仕事の「大変さ・責任の重大さ」を実感した者が10人。反対に、「不安や大変そう」との思いを「期待感」に変えた者が3人いた。また、仕事に対するイメージが「生活のための金稼ぎ⇒自立・自己実現(8人)」へ変化したり、「自分を活かしたい⇒社会人としての自覚と自己実現(4人)」へと視野の広がりを見せたりもしている。

いずれの場合も、学部キャリア教育の効果が実証されたものと言えよう。とりわけ実習の影響の大きさが随所に見られた。

【漠然としたイメージ⇒明確な意識化】

- ・保育士として働きたいと思っていたものの漠然としたことしかわかっていなかった。長く続ける仕事ではないかな、と考えていた。
- 4年間保育のことを学び、実習に何度も行ったことで、保育士として働くことがどんなに大変なことがわかった。と同時に、とてもやりがいのある仕事だとわかり、長く続けていきたいと思えるようになった。
- ・あまり考えていなかった。どこかで働けばいいやと思っていた。
- 不安だけど、立派な大人になるぞ。
- 働きたい所がみつき、働きたいと強く思うようになった。
- ・実感がまったくなかった。
- 採用試験勉強・実習・ボランティアを通して、自分が本当に教師になるのだという実感がわいてきた。

- ・漠然。働くことを意識していなかった。  
→働くことに対して、期待と不安を感じるようになった。
  - ・働くことに明確なイメージを持っていなかった。  
→社会人として働くことに不安はあるが、期待もある。  
責任を持って働きたいし、自立したいと思う。
  - ・具体的にイメージがつかめなかった。  
→ただ自分がやりたいことをやるだけではなく、人間関係なども大切だと強く思うようになった。働くことはたいへんなことだと感じている。
  - ・漠然としていた。→徐々に自覚がわいてきた。
  - ・働くという実感と言うか、「社会人」という存在が遠いものだと思っていたので、自分の身に置き換えて考えることはできていなかった。  
→内定が決まった今、少しずつ内定先に足を運ぶ機会も増え、実際に働いている先輩たちを見ると、大変さが伝わってきて、身の引き締まる思いです。
  - ・将来のことは考えていなかった。→生活するために必要なこと。
  - ・何も考えていなかった。→やる気があれば、誰でもできる。
  - ・まだまだ先のこと。→現実。責任。
  - ・働くことなんて、考えられなかった。想像できなかった。  
→現実。でも、新しい環境が楽しみ。
  - ・社会人になるというイメージがわからなかった。  
保育について何も知らず、あこがれだけ持っていた。  
→社会人になる自覚と不安があります。
  - ・就職できたら、いいな。→「仕事」観を持つことができた。
  - ・ほとんど考えていなかった。  
→自分には何が合っているのか、真剣に考えて進路を決めました。  
嫌々ではなく、責任を持って、楽しく活き活きと働ける仕事でなければならぬと思いました。
  - ・あまり考えていなかった。4年生になったら考えようと軽い気持ちだった。  
→仕事や働くことのたいへんさを実習等で学び、来年から気合を入れて仕事に取り組もうと思っている。
  - ・社会人になる実感が全くなかった。  
→実習などを通して仕事について知り、実感がわいた。
  - ・実感がわからなかった。→不安。
- 【夢・あこがれ・希望⇒大変さ・責任の重大さを実感⇒ポジティブマインド】
- ・夢としてぼんやり感じていた。不安の方が大きかったかも(2)。  
→だんだんと現実的になってから、働くことが楽しみになった。不安もあるけれど、楽しもうという気持ちが大きくて、ポジティブです。
  - ・夢や希望がたくさんあった。



- 働くことの大変さ、現実、自分の向き不向きについて深く考え、納得した就職先を見つけることができた。就職活動での苦勞を胸に、頑張っています。
- ・夢やあこがれ。→責任あるすばらしいこと。しっかりこれからも頑張りたい(2)。
- ・夢があった。自分に自信があった。
  - 義務と責任を感じるようになり、働く上での理不尽さを容認するようになった。
- ・夢としてはほんやり感じていた。不安の方が大きかったかも。
  - だんだんと現実的になってから、働くことが楽しみになった。不安もあるけれど、楽しもうという気持ちが大きくて、ポジティブです。
- ・保育士という夢に向かって、勉強を頑張ろうと思った。
  - 夢がかなった今、社会人としての常識や心得を学んでおかなければならないし、一人の人間として責任をもたなければならないと思う。
- ・教員になるという希望を持って、勉強などががんばろうと意気込んでいた。
  - 社会の一員として働きお金をもらうことに、責任を感じられるようになった。
- ・保育士として働くことに大きな希望を持って入学した。
  - 実習で保育の現場を体験し、大変さ・辛さを感じ、一度は保育の仕事をやめ、一般企業への就職を考えたこともありましたが、しかし、保育士・幼稚園教諭の仕事は、大変であると同時に、お金に換えられない子どもたちの成長にかかわれる仕事だと改めて知ることができました。これから、誇りを持って仕事をしたいです。

**【夢・あこがれ・希望⇒大変さ・責任の重大さを実感⇒ネガティブマインド】**

- ・夢でした。→憂鬱に思います。
- ・夢。→就職を目の前に、自分の責任の重さを感じ、不安を感じる。
- ・幼稚園の先生になる夢でいっぱい不安はなかった。
  - 学ぼうちに職業の大変さを知り、葛藤が多いです。
- ・あこがれ。→本当にすごい仕事。たいへんだと思う…。
- ・自分のやりたいこと。あこがれ。→不安と期待。不安の方が大きいかも。
- ・わくわくしていた。→不安と期待。どきどき。
- ・わくわくする気持ち。先生になれるかな…。
  - 現実になり不安。もっと勉強しなければ…。
- ・早く働きたい(夢の実現)。→働くことに不安。責任感につぶされそう(笑)。
- ・就職活動をするのが楽しみで、早く働いてみたいと思っていた。
  - 来年から働くのかと思うと、ちゃんとできるのか、続くのかと不安がある。
  - まだ働きたくないという気持ちが強い。

**【楽しそう⇒大変さ・責任の重大さを実感】**

- ・子どもたちと楽しい毎日が送れる。→子どもを育て、守るという重大な責任。
- ・保育職は子どもと過ごせる楽しい仕事としか考えていなかった。
  - 大変なこともたくさんあると思う。でも、楽しみです。

- ・あまり現場の事情を知らなくて、良いところ(華やかさなど)しかみていなかった。  
→大切なお子さんを預かるということに対して意識するようになり、日頃の生活態度から気をつけるようになった。
- ・子どもとかかわりながらの仕事なので、楽しそうだと思っていた。  
→保育士として働くにあたって、子どもの命をあずかる仕事なので、責任感を持って働かなければいけないと感じている。
- ・楽しそう。→きつそう。責任が重い。毎日が忙しそう。
- ・楽しそう。→不安と期待。不安の方が大きい。
- ・楽しそう。→楽しそうだけど、たいへんそう。
- ・働くのは楽しそう。→不安でいっぱい。責任や自分の実力に。
- ・楽しみ。→実際に教師としてやっていけるのか、不安。
- ・楽しそう。→働くまでに、自分のスキルをもっと上げておかなくちゃ。

【不安・大変さ⇒期待感】

- ・働くことに不安でいっぱいだった。→ 不安もあるけど、期待もある。
- ・「大学で学んだ後、本当に保育士になれるのか」「私には向いていないかも」という不安感があった。  
→もちろん不安は全部消えないが、とにかくやってみないと始まらない！という期待が大きい。4年間の学習や実習を通して学んだことを思い出して、バネにして、成長していきたい。
- ・忙しい、大変などのイメージ。  
→忙しい中で仕事に対するやりがいを見つけ、目標を持って取り組んでいきたい。

【生活のための金稼ぎ⇒自立・自己実現】

- ・金稼ぎ。→自己実現。
- ・仕事＝お金をもらう為のもの。バイトより責任がある。  
→責任の重さを改めて実感したとともに、働きながら成長していきたいと思う。
- ・お金を稼いで、自立した生活をおくる為に必要なことだと考えていた。  
→自分自身が楽しんで働くことが一番大切だ、と考えるようになった。
- ・お金をもらうために仕方なく。  
→お金のためもあるけど、自分がやりたいから働く。自分の人生のため。
- ・学校に行かなくても、働けばお金がもらえる。  
→責任を持って、採用された所で働けるように頑張る！
- ・生活するために必要なこと。  
→生きるために必要なこと（生活のためでありつつ、生きがいとしたい）。
- ・生きていくために働く。→人生を充実させるために働く。
- ・生活するため。たいへんなこと。  
→就職が決まったからには、頑張らないと。  
生活することも大切だけど、子どもたちと一緒に、私自身も色んな体験をして

自分磨きをしたい。

【一般的な仕事・労働のイメージ】

- ・社会に出ること。→仕事に責任を持って、社会に貢献すること。
- ・仕事とは一生もの。→自分が働きたいと思える職場が少ない。

【自分を活かしたい⇒社会人としての自覚と自己実現】

- ・自分が興味を持っていることを仕事にしたい。→社会人として自立する。
- ・自分の本当にやりたいことをみつけない。
- 他の道もあるけど、教師人生を歩んで行こうと心に決めた。
- ・自分のやりたいことを仕事にしたい。
- 楽しみと責任。やっていけるのか不安。社会人としての自覚。
- ・自分の特技・好きなこと・適性を活かして、自己実現していく場所。
- 自分の一生をかけて、自己実現していくこと。
- 自己実現の場。自分が最も自分らしくしていただける場。

自信を持って、自分の力を発揮できるチャンスをもたらえる場。

【その他：厳しい現実】

- ・絶対に教員になろうという意思はなかった。→まだ働く口がないので不安定。
- ・努力すれば仕事につける。→努力しても実らなかった。
- ・良い面しか思い浮かばなかった。→現実的に給料や働く条件がみえてきた。
- ・働くことに希望を持っていた。お金をいっぱい稼げる仕事だと思っていた。
- 公務員の低賃金にがっかり。もっと稼げる仕事にすべきだったのでは？

#### 4. まとめと今後の課題

これまで述べてきたように、手探り状態で進めてきた教育学部第1期生への就職支援活動は、その成果と学生の満足度において、当初の予想を上回る結果を残すことができたと言えよう。しかしながら、改善すべき課題や要望等もまた多数残されている。学生一人ひとりの希望に叶った就職支援を推進して行くためには、今回明らかになった課題と要望の一つ一つに誠実に対処していく必要がある。関連部署における検討と対策を望みたい。そして、教員集団としては、就職支援に関する教員間の温度差を小さくし、点ではなくて面で、早期から学生を支援する体制の構築を目指していきたいと考えている。次年度以降も継続調査し、その経過を明らかにしていきたい。

尚、本調査は、本学キャリア特別委員会（平成22年度発足）に所属する筆者が、キャリア教育に対する全学的満足度調査実施のための基礎資料を得るために行ったものであるが、教育学部生への就職支援を考える一助となればと願い、報告するものである。ご協力いただいた平成22年度教育学部第1期卒業生の皆さんに、心からお礼申し上げます。